

ソフトウェア大手の独SAP

大分にコンサル拠点

日本初 運営はザイナス

ソフトウェア世界大手の独エス・イー・ピー(SAP)日本法人は10日、16の国と地域で展開するコンサルティング拠点「AppHaus(アップハウス)」を日本で初めて大分市金池南に開設した。運営・管理は契約する同所のIT企業ザイナスが担う。ワークショップや異業種交流などを通じ、アイデアの創出をサポートして企業の課題解決につなげる。

新拠点の名称は「ザイナス アップハウス オオイト」で、コワーキングスペースなどがある民間ビルのコレジオ大分に入る。ザイナスの社員約10人が運営業務を担う。無料のワ

orkshopを開き、経営課題の解決にIT技術を活用するアイデアを出し合う。

アイデアの実現に向けてはSAPの開発したソフトの導入を勧める。ザイナスは導入後のコンサルティング料などを収益にする。

SAPは2013年から企業などのコンサル業務に参入した。16カ国・地域のIT企業18社とパートナー契約を結んで拠点を設けており、今回で23カ所目。

大分大を舞台に開発された防災減災プラットフォームMEDISON(エジソン)で、SAPジャパンとザイナスが共同でシステム構築を担ったことがきっかけで交流が始まった。

10日、開設を祝うイベントが現地であった。ザイナスの江藤彰悟副社長(32)が「大分からIT技術を使った成功事例が生まれ、全国に波及することで地域活性化につながれば」とあいさつ。

SAPジャパンの鈴木洋史社長(56)が「別府、湯布院などに立ち寄りながらこの拠点を活用し、イノベーション(技術革新)が起こることを期待する」と述べた。



オープン式典でテープカットに臨むザイナスの江藤彰悟副社長(右)ら10日、大分市金池南



「ザイナス アップハウス オオイト」が入居するコレジオ大分